



2024 年度秋季学位記授与式 (2024 年 9 月 27 日)

## ■ TOPICS

- » 2024 年度秋季学位記授与式
- » 第 13 回 SOKENDAI 賞
- » 2024 年度前期 研究科長賞
- » 2024 年度秋季入学式
- » 2024 年度後学期フレッシュマンコースを開催
- » 地域文化学専攻 金丸雄一さん (2020 年度入学) が被災地・石川県輪島の支援活動に奔走
- » SOKENDAI KEK Tsukuba/J-PARC Summer Student Program 2024 を開催
- » 2024 年度 国立天文台・総研大サマースチューデントプログラム (夏の体験研究) 開催
- » SOKENDAI 研究派遣プログラムを利用したアメリカでの実地調査
- » 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業 :  
Maker Faire Tokyo 2024
- » 2024 年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会

## ■ 受賞情報

- プレスリリース情報
- メディア情報
- イベント情報

## TOPICS

## 2024/9/27 2024 年度秋季学位記授与式



学位記授与

2024年9月27日(金)、葉山キャンパス講堂にて秋季学位記授与式が挙行されました。式典では学長より修了生一人一人に学位記が手渡しで授与されました。その後、学長からの式辞及び修了生代表からの謝辞が述べられ、課程博士24名、論文博士1名が総研大での博士号を手に、将来への新たな一歩を踏み出しました。

## ■学長式辞

≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240927.html>

## 2024/9/27 第13回 SOKENDAI 賞



左: 土井 聖明さん、中央: 永田学長、右: 櫻井 隼さん

2024年9月27日(金)、学位記授与式に引き続き、第13回 SOKENDAI 賞受賞者3名の表彰が行われました。

氏名	所属
大和 あすか	文化科学研究科 日本歴史研究専攻
土井 聖明	物理科学研究科 天文科学専攻
櫻井 隼	生命科学研究科 基礎生物学専攻

≫ SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として2018年度に創設されました。

≫ URL: [https://www.soken.ac.jp/education/dispatch/sokendai\\_award/](https://www.soken.ac.jp/education/dispatch/sokendai_award/)

## 2024/9/27 2024 年度前期 研究科長賞

2024年9月27日(金)、SOKENDAI 賞の表彰に続き、2024年度前期 研究科長賞者5名の表彰が行われました。

氏名	所属
JASSLA PALASSERY ITHIKKAL	物理科学研究科 構造分子科学専攻
ANGELO PEREZ RILLERA	高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻
Yuanyuan Niu	複合科学研究科 統計科学専攻
井上 峻	複合科学研究科 極域科学専攻
Biswa, Bhim Bahadur	生命科学研究科 遺伝学専攻

≫ 研究科長賞は、研究科において特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した学生を表彰するものとして、2018年度に創設されました。

≫ URL: [https://www.soken.ac.jp/education/dispatch/dean\\_award/](https://www.soken.ac.jp/education/dispatch/dean_award/)

## 2024/10/8 2024 年度秋季入学式



学長式辞

2024年10月8日(火)、2024年度秋季入学式が葉山キャンパス講堂にて挙行されました。永田学長から式辞が述べられた後、新入生32名一人一人の名前が読み上げられ、新入生たちは新たな気持ちで大学院生活をスタートさせました。

≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241008.html>

## 2024/10/8 - 10/11 2024 年度後学期フレッシュマンコースを開催

2024年度後学期フレッシュマンコース(英語)を、10月8日(火)～11日(金)にて開催し、25名の参加がありました。最初の3日間は葉山キャンパスにおいて対面での授業を実施しました。2020年度から2022年度はコロナ禍のため、オンラインで開講しましたが、今回は、昨年度に続き2泊3日の合宿形式とオンデマンドを組み合わせた形式による開催となりました。フレッシュマンコースは、「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考える

べき問題を学ぶ」「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く」ことを目的とし、新入生を主な対象として集中講義を実施しています。

初日から2日目にかけての「アカデミア探訪」では、総研大で行われる研究活動の多様性と共通性に触れ、大学院での研究生活のイメージを描くことを目的として、教員によるパネルディスカッションと、在学生（フレッシュマンコース学生企画委員）による企画セッションが行われました。2～3日目の「研究者と社会」では、研究者が社会において望ましい役割を果たし研究者のコミュニティが健全に機能するために必要な倫理規範を洞察する能力の涵養を目的とし、講義とワークショップ形式での授業を行いました。「研究者と社会」の中の「研究者倫理」はオンデマンド講義として実施しました。「研究者のための“伝える技術”」は、研究成果発表を想定したプレゼンテーションとライティングのオンデマンド講義を行いました。



講義の様子



グループワークの様子

授業後のアンケートの「オンラインではなく対面で集まったことは有意義でしたか」という質問には、80%以上の回答者から、「とてもそう思う」という回答がありました。今年度の参加者には、学部時代にオンライン講義ばかりでほとんどキャンパスに通えなかった学生が多かったことも反映されているかと思います。個別回答の中では、「I was able to know that there were people in different institutes that do research in a similar field as me. The FC student coordinates were friendly and easy to talk to.」という声もあり、好評でした。初日の講義後には対面での Reception Dinner も開催し、多くの参加者が交流を楽しみ、Reception Dinner 後も各自で交流するなど活発なコミュニティの形成がされていました。3日目の集合写真の撮影時には、総研大ロゴ入りのTシャツを撮影に合わせて着用している受講生が多くみられ、受講生チームに一体感が生まれていました。

また次のフレッシュマンコースに、学生企画委員として新入生向けの企画に関わりたくと希望してくれた受講生が参加者の半数以上で、過去最高の割合となりました。多くの受講生が今回のコースに価値を見いだしてくれたことが分かり、運営側として大変嬉しく思います。

次回のフレッシュマンコースは日本語で4月開催予定です。



フレッシュマンコース 集合写真

【教育企画開発センター】

## 2024/1月～ 地域文化化学専攻 金丸雄一さんが被災地・石川県輪島の支援活動に奔走

地域文化化学専攻 2020 年度入学の学生である金丸雄一さん自らが代表をつとめる甲賀地区景観環境保全会は、2024 年元旦に発生した能登半島地震直後から、石川県輪島の海女への支援活動に奔走しています。

輪島では家屋倒壊により漁具が使えなくなったり、沖合の舳倉島では津波により漁具を流された海女さんも多く、金丸さんが獲物入れとなる磯桶や網袋（スカリ）をつけた浮き輪、ウニやアワビの採集用具などの漁具を三重から持参し支援を行っています。

金丸さんの研究テーマは「日本列島における海士・海女の民族誌的研究」です。研究活動とは目的は異なりますが、研究対象である海士・海女の窮地に寄り添う支援活動を継続し、応援していきたいと思っています。



アワビオコシやウニ掻きを手にする輪島の海女さん

支援物資の漁具を囲んで輪島の海女さんと海女さん

>> 支援のお問い合わせはこちら：[bluecowboys@gmail.ne.jp](mailto:bluecowboys@gmail.ne.jp)

【人類文化科学コース】

## 2024/6月-9月 SOKENDAI KEK Tsukuba/J-PARC Summer Student Program 2024 を開催

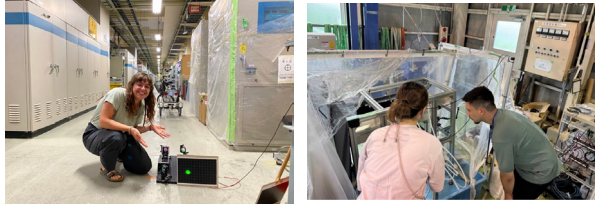
今年の6月から9月末にかけて、高エネルギー加速器研究機構において2024年度のSOKENDAI KEK Tsukuba/J-PARC Summer Student Program(KEKSSP)を開催しました。今年度の開催は、現在の形になってから第3回目の開催です。

KEKSSPは、主に海外の大学生、大学院生がKEKつくばキャンパスまたは東海キャンパスに滞在し、プロジェクトに参加して研究を行う機会を提供するプログラムです。参加者は、1～2ヶ月程度滞在して、同じプログラムに所属する国内外の研究者・学生とともに

研究を行います。今年は、中国、フランス、ドイツ、香港、インド、インドネシア、イタリア、メキシコ、モンゴル、パキスタン、ポルトガル、スペイン、トルコ、アメリカから 21 名の若い学生たちを受け入れました。「素粒子物理」「原子核物理」「物質・生命科学」「加速器」「先端計測」の中から、合計 14 グループで受け入れて実習を実施しました。それぞれのグループの実習や報告会の様子を見ますと、楽しく取り組んでいる様子が伺えます。



学生の発表の様子



本プログラムの実習の様子

実施期間の中盤となる 7 月 29 日 (月) と 30 日 (火) には、滞在中の学生が集まって共通イベントを開催しました。このイベントでは、学生の自己紹介や中間報告、素核コース長による総研大の紹介、素粒子物理などの講義や、つくばキャンパスの施設見学を行いました。学生の発表では、自分の大学や母国についてや日本滞在中の様子などの紹介もあり、学生同士の交流も深まりました。また、初日には、小林誠特別荣誉教授から参加学生へのコメントも頂きました。またその後、全員で記念撮影を行い、大いに盛り上がりました。



小林特別荣誉教授と参加者との記念写真

本プログラムの実施には、総研大、IINAS-NX、JENIFFER、日仏協力事業、参加学生の大学からの予算補助を受けて実施いたしました。本プログラムでは、世界最先端加速器施設である KEK や J-PARC で研究の体験してもらうことで、総研大 (または KEK/J-PARC のプロジェクトに参加している国内外の大学院) への進学を増やすことを目指しています。また、プログラム経験者が総研大など大学院を経た後、将来の国際連携の核となる人材育成に繋がればと考えています。

今年度のプログラムに参加した学生に、なぜこのサマースチューデントプログラムに応募したのか、日本での生活はどうか、などをインタビューしました。

#### ■ Diogo Costa さん (ニュートリノ実験グループの実習に参加)

私はすでに、J-PARC の T2K 実験、特に ND280 に関するプロジェクトに参加しています。私の指導教官の一人が、プロジェクトを完了させるために日本に行く機会を提案してくれて、このスチューデントプログラムに参加することになりました。2 週間前に日本に到着しました。日本滞在中には、T2K 実験の中の別のプロジェクトにも取り組み、学士論文としてまとめる予定です。私にとって本当に新しいことは、素粒子研究の理論的なことです。私は機械工学を勉強しているので、この種の物理学についてはあまり知りません。時々理解するのが難しいので同僚に助けを求めています。

#### ■ Oguz Alp Duran さん (測定器開発センターの実習に参加)

私はトルコ出身で、ドイツで勉強しています。ドイツに行った理由は、ドイツ人が精密さと工学で知られているからです。そして、トルコでは、日本人についても同様の見解を持っていて、日本人は非常に精密で誠実な人々だと思っています。

専門は電気工学ですが、ここ数年で素粒子物理学に非常に興味を持つようになり、CERN の ALICE 実験に関わるプロジェクトで論文を書くことになりました。

偶然にも、私の教授の一人が Belle II 実験に携わっており、私の電気工学のバックグラウンドと、素粒子物理学への学びと貢献への熱意を評価してくれこのプログラムに応募することを勧めてくれました。私はこのプログラムが物理学者だけのものだと思っていたからエンジニアである自分が受け入れられるかどうか心配でしたが、挑戦してみて、受け入れられました。全体として、日本は技術の最先端にあり、それは Belle II 実験でも見られます。このプログラムに参加することは、私にとって非常に重要な意味を持つと感じています。このプログラムを終えた後は、半導体を専門とする電気工学の修士課程を続ける予定です。そして、半導体の専門家として、KEK あるいは CERN の実験 (もしかしたら KEK の Belle II 実験) で検出器開発などに貢献できたら嬉しいです。

#### ■ Valeria Costa さん (Belle-II 実験グループの実習に参加)

イタリアから来ました。飛行機に乗ったのも、ヨーロッパを出たのも初めてです。サマースチューデントプログラムに受かるのは難しいと言われていたので、今ここにいてとても嬉しいです。日本は初めてですが、特に不自由なことはないです。ここはイタリアと違ってエアコンが効いていますからね。

#### ■ Sophie McNeill さん (Belle-II 実験グループの実習に参加)

私はフランスから来ました。日本は初めてです。湿度が高くて少し辛いです。大学を卒業したばかりで、理論か実験のどちらに進むか決めていません。今後のキャリアパスを決めるのに、KEK サマースチューデントプログラムがとても良い機会になると大学の先生から言われて応募しました。粒子加速器について深く学べて嬉しいです。

【高エネルギー加速器研究機構】

## 2024/8/1-8/30 2024 年度 国立天文台・総研大サマースチューデントプログラム (夏の体験研究) 開催

国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラムが 2024 年 8 月 1 日 (木) ~ 8 月 30 日 (金) に実施されました。

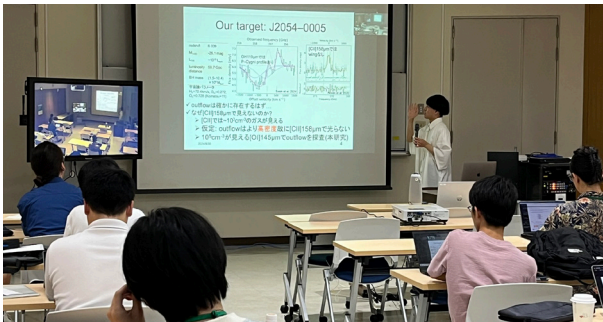
これは今年で14年目になる夏休み期間の研究体験プログラムで、大学2年または3年に在学する学生が国立天文台に滞在し、受入教員の指導のもとで研究することができる企画です。天文学に興味を強く持ち、意欲のある大学学部生に体験研究の機会を設けることで、将来天文学研究を志す人材を育成することを目的としています。実際、このプログラムの修了生が国立天文台の総研大に入学し、研究者として活躍している例も多くあります。

本年度も天文学研究から装置開発まで、非常に幅広い分野の教員がサマーチューデントプログラムに参画しました。各教員が研究指導内容のシラバスを提出し、それをもとに学生がやりたい研究を希望することができます。

全国の大学から、49名の学生の応募があり、25名の学生を選抜しました。学生の挑戦する研究テーマは月の研究から遠方銀河、さらには装置開発、数値シミュレーションまで実に多岐にわたります。それぞれの学生が教員の指導を受けながら、プログラミング言語を用いたデータ解析や数値計算、装置開発における部品の設計など、通常の大学の講義では触れられない内容を濃密に経験することができました。研究体験だけでなく、昼食やコーヒーを飲みながらの雑談を通じて、研究とはどういうものかを少し具体的に知ることができたかもしれません。



全国の様々な大学から多くの学生が本プログラムに参加した



研究成果発表会では各学生が質の高い発表を行った

サマーチューデントプログラムのまとめとなる研究成果発表会を2024年8月30日(金)にハイブリッド形式で国立天文台三鷹キャンパスにて開催しました。参加した学生の多くは対面での発表をし、限られた研究期間にも関わらず質の高い発表が多くみられました。また、学生からの質問も多く議論が盛り上がり、盛況のうちに閉会しました。参加学生と教員ともに中身の濃い、有意義な1ヶ月となりました。この一夏の経験が、学生にとっても教員にとっても、今後の役に立つことが期待されます。

≫ URL : <https://guas-astronomy.jp/ss.html>

【天文科学コース 田中 賢幸准教授 (国立天文台ハワイ観測所)  
滝脇 知也准教授 (国立天文台天文シミュレーションプロジェクト)】

## 2024/8月 SOKENDAI 研究派遣プログラムを利用したアメリカでの実地調査

2024年8月、SOKENDAI 研究派遣プログラムを利用して、アメリカ合衆国所在の古筆手鑑(こひつてかがみ)の実地調査を行いました。

古筆手鑑とは、多種多様なジャンル・時代の古筆切(こひつぎれ)(肉筆で書かれた卷子本や冊子本等を切断・分割した断片資料)をアルバムのように貼り込んだ資料です。調査出張にあたり、本学の「SOKENDAI 研究派遣プログラム」に申請し、採択されました。「SOKENDAI 研究派遣プログラム」とは、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での長短期の研究活動を支援する制度です。

本調査の主な目的は、イェール大学バイネキ稀覯本(きこうぼん)・手稿(しゅこう)図書館所蔵の古筆手鑑の解題(かいだい)作成を軸に、古筆手鑑の入門・概説の図書を出版することにあります。現地調査に先立ち、Edward Kamens氏(Sumitomo Professor Emeritus of Japanese Studies, Yale University)・舟見一哉(ふなみかずや)氏(実践女子大学准教授)と対面・オンラインによる度重なる打ち合わせを行いました。

現地調査では、デジタル画像からは得られない古筆切の寸法・字面の高さ・装訂・紙質の書誌データを集めるために、一葉一葉を丁寧かつ詳細に調査しました。調査同行者の舟見氏とは約10日間をともに行動しましたが、第一線で活躍されている研究者が古筆手鑑を調査する際に、何を大事にして向き合っているのかを、目で見て、耳で聞くことができ、充実した調査となりました。



調査風景 (左、瀧山嵐さん。右、舟見一哉准教授)

滞在中、調査の成果報告を含む研究集会「Tekagamijō Workshop : Recent Research and Publication Plans」(オンライン開催。2024年8月21日)を実施しました。本研究集会在、私にとって初めての英語による資料作成と発表とのチャレンジとなりました。研究集会には、アメリカの研究者・ライブラリアン・キュレーター・大学院生、およびこれまで本手鑑の調査に関わってこられた日本の研究者が参加し、ディスカッションの時間には活発かつ有益なやり取りが行われました。

大学院生として海外所在の資料調査を実施できたことや、海外で研究発表を行ったこと、図書出版の編集作業に関わっていることは、自身の研究者としての視野を広げるとともに、改めて原本資料を扱う研究は魅力的だと思える貴重な経験となりました。

【日本文学研究専攻 3年 瀧山嵐】

## 2024/9/21-9/22 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業：Maker Faire Tokyo 2024

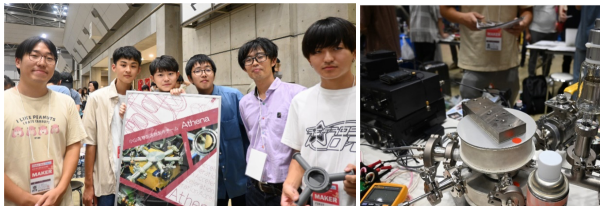
2024年9月21日(土)・22日(日)、東京ビッグサイトにてMaker Faire Tokyo 2024が開催され、小山工業高等専門学校の加速器製作チーム「アテナ」と長野工業高等専門学校の加速器研究同好会「かそ☆けん」が、これまでの加速器製作活動や測定結果について紹介するとともに、電磁石や真空チェンバー、製作された小型サイクロトロン加速器を展示しました。総研大では、SOKENDAI社会連携事業「高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業」の一環として、加速器科学コースを中心とした教員・学生の指導やサポートのもと、高専生が加速器製作を行う取り組みを支援しています。

≫ SOKENDAI社会連携事業は、本学の研究や教育の成果を社会に還元することを目的とした事業です。「高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業」はそのひとつで、全国の工業高等専門学校において加速器製作を中心とした教育プログラムを展開し、加速器製作を通じて、学術に対する広い興味関心の醸成や多彩なキャリアパス形成に貢献することを目的としています。

■出展者：小山工業高等専門学校「アテナ」

長野工業高等専門学校「かそ☆けん」

加速器アウトリーチ Axelatoon



小山高専加速器製作チーム「アテナ」の皆さん  
小山高専・平野進一助教(左端)  
総研大・大谷将士准教授(右から2人目)

小型サイクロトロン加速器



長野高専加速器研究同好会「かそ☆けん」の皆さん

Maker Faire Tokyo は、カードサイズのコンピューター、3Dプリンター、AIやロボットなど新しいテクノロジーを、ユニークな発想で使いこなし、ものを作り出す「Maker」が展示とデモンストレーションを行う場で、初日から多くの来場者で賑わいました。

小山高専加速器製作チーム「アテナ」と長野高専加速器研究同好会「かそ☆けん」の展示にも、こどもから大人まで沢山の方が集まり、高専生が製作した小型サイクロトロン加速器や、これまでの測定結果などについて、興味深そうに説明を聞き、また熱心に質問していました。特に、加速器の原理について説明するために用意された磁石玉とピンを使ったゲームには、多くの方が実際に体験しながら、楽しく理解を深めていました。高専生たちは、来場者からの

質問に一つ一つ丁寧に、大変わかりやすく回答していました。

≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241018.html>

【広報社会連携係】

## 2024/10/10-10/11 2024年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会

2024年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会を、10月10日(木)～11日(金)に対面(於：葉山キャンパス)とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。1日目は現地18名・オンライン28名、2日目は現地19名・オンラインは11名の葉山本部図書館の職員及び附属図書館を構成する各基盤機関の図書館・図書室の教職員が参加しました。



葉山キャンパス会場の様子



講演会 林和弘先生

講演会では林和弘先生(文部科学省 科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室 室長)に「オープンアクセス義務化政策の背景と狙いを紐解く」と題して、講演いただきました。葉山本部及び基盤機関の図書館・図書室が、現在もっとも関心を寄せるテーマについて、歴史や経緯も含めてお話しいただき、大変勉強になりました。講演内容を踏まえ、来年度以降のオープンアクセス義務化に備えていきます。

今年度は基盤機関より、①転換契約について、②研究データ管理状況について、③機関リポジトリへのデータ登録状況、④機関リポジトリの運営体制・登録手順などについて、⑤図書館システムの共同調達についての実情、⑥APC支払い状況の把握、の6件の承合事項が提案されました。

2日目の意見交換会では、学術情報基盤事務室の貝塚室長による司会進行のもと、①電子ジャーナル購読契約の方針について、②転換契約について、③研究データ管理状況について、の3つの議題で意見交換が行われました。②③については承合事項でも、各機関の状況や意見を事前に伺っておりましたが、当日はより深い議論となりました。また学認RDMや電子ジャーナルの論文単位での購読、ハイブリッドオープンアクセス誌のデータ入手についてなどの質問も挙がりました。

対面を含めた開催は5年ぶり、オンラインのみでは出来なかった活発な意見交換や交流をすることができました。来年度以降の開催スケジュールや、会場については検討中ですが、対面を含めた形式で開催できるよう計画したいと考えております。そして今後も各基盤機関図書館・図書室との連携を深め、学生・研究者を支援していきます。

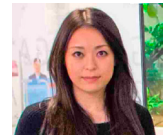
【図書係】

## AWARDS

**遺伝学コース 川口茜助教が日本発生生物学会 第 1 回 JSDB Frontiers Prize 賞を受賞**

6月21日、遺伝学コース 川口茜助教が日本発生生物学会 第1回 JSDB Frontiers Prize 賞を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/06/information\\_ja/ha20240621.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/06/information_ja/ha20240621.html)



川口茜助教

**人類文化研究コース 日高真吾教授が第 17 回文化財保存修復学会 学会賞を受賞**

6月23日、人類文化研究コース 日高真吾教授が第17回文化財保存修復学会 学会賞を受賞しました。

>> URL: [https://jsccp.or.jp/award/awardinfo\\_24.html#body](https://jsccp.or.jp/award/awardinfo_24.html#body)

**生命共生体進化学専攻学生の久保鮎子さんが日本文化財科学会 第 41 回大会 ポスター賞を受賞**

8月2日、生命共生体進化学専攻学生の久保鮎子さん（D4）が日本文化財科学会 第41回大会 ポスター賞を受賞しました。

**受賞コメント：**

研究室のみなさんのサポートのおかげで受賞できました。今回はプロテオーム解析により平安時代の小児エナメル質断片より性別を明らかにした研究により、受賞することができました。

日本の遺構におけるプロテオーム解析の応用例を増やし、かつての人々がどのように在ったかを明らかにできればよいと考えています。

>> URL: <https://www.kuba.co.jp/jssscp2024/index.html>

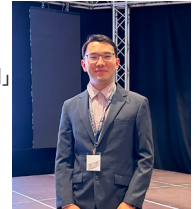
**遺伝学コース学生の Adilgazy Semeigazin さんが FASEB Research Conference 「Biology of Acetylation in Health and Disease」にて「Second-place Poster Award」および「Travel Award」を受賞**

8月4日～8日に開催された FASEB Research Conference 「Biology of Acetylation in Health and Disease」

において遺伝学コース 文科省国費留学生の Adilgazy Semeigazin さん（D4）が「Second-place Poster Award」

および「Travel Award」を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information\\_ja/ha20240813.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information_ja/ha20240813.html)



Adilgazy Semeigazin さん

**国際日本研究コース タイモン スクリーチ教授が令和6年度外務大臣表彰を受賞**

国際日本研究コース タイモン スクリーチ教授は、日本と英国との相互理解の促進に貢献した功績により、

外務大臣表彰を受けることになり、8月8日、外務省飯倉別館において表彰式が行われました。

**授賞功績：**日本と英国との相互理解の促進

※同表彰は、多くの方々が国際関係の様々な分野で活躍し、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をしている中で、特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的としたものです。

>> 外務省報道発表「令和6年度外務大臣表彰」：[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit\\_000001\\_00959.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_00959.html)



タイモン スクリーチ教授

**遺伝学コース学生の Ayjan Urazbayeva さんが the 18th International Zebrafish Conference “Shaping the Future of Early-Career Zebrafish Researchers” で Best Presentation Award を受賞**

遺伝学コースの文科省国費留学生の Ayjan Urazbayeva さん（D4）が8月17日-21日に行われた the 18th

International Zebrafish Conference “Shaping the Future of Early-Career Zebrafish Researchers” で

Best Presentation Award を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information\\_ja/ha20240823.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information_ja/ha20240823.html)



Ayjan Urazbayeva さん

## 遺伝学コース学生の丹羽大樹さんが第 26 回日本進化学会神奈川大会 学生口頭発表賞の最優秀賞を受賞

8月21～24日に行われた第26回日本進化学会神奈川大会において、遺伝学コース 学生で学振特別研究員の丹羽大樹さん（D5）が学生口頭発表賞の最優秀賞を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information\\_ja/ha20240827.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/08/information_ja/ha20240827.html)

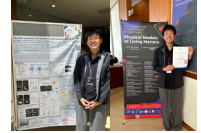


右：丹羽大樹さん

## 遺伝学コース学生の大塚碧さんが Physical Models of Living Matters – The 3rd Symposium of Physical Biology and Biological Physics で First-place Poster Award を受賞

遺伝学コース学生で SOKENDAI 特別研究員の大塚碧さん（D4）が2024年8月30日-9月1日に行われた Physical Models of Living Matters – The 3rd Symposium of Physical Biology and Biological Physics において First-place Poster Award を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/09/information\\_ja/ha20240902.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/09/information_ja/ha20240902.html)



大塚碧さん

## 統合進化科学コース 颯田葉子教授が日本遺伝学会木原賞を受賞

9月6日、統合進化科学コース 颯田葉子教授が日本遺伝学会木原賞を受賞しました。

### 受賞コメント

このような名誉ある賞をいただけたことは、望外の喜びです。今回は今まで蓄積してきた「進化学におけるデータサイエンスの推進」に関わる研究で受賞しました。今後も、この賞の名に恥じぬよう研究に邁進していきます。

多くの先生方、また学生を含む共同研究者の皆様方に支えられて、受賞することができたと思います。ありがとうございました。

>> URL: <https://gsj3.org/newslist/2024/news2802/>



右：颯田葉子教授

## 遺伝学コース 学生の Biswa, Bhim Bahadur さんが森島奨励賞を受賞

9月10日、遺伝学コース学生の Biswa, Bhim Bahadur さんが2024年「森島奨励賞」（2024年度前期の学位出願者が対象）を受賞しました。

>> URL: [https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/09/information\\_ja/ha20240920.html](https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/09/information_ja/ha20240920.html)



左：Biswa, Bhim Bahadur さん

## 統合進化科学コース 学生の一色竜一郎さんが第4回理論生物学夏の学校でポスター賞を受賞

9月10日、統合進化科学コース学生の一色竜一郎さん（D1）が第4回理論生物学夏の学校でポスター賞を受賞しました。

>> URL: <https://sites.google.com/view/summerschooltheorbiol/home>



一色竜一郎さん

## 統合進化科学コース 学生の南駿さんが2024年度日本数理生物学会年会でポスター賞優勝賞を受賞

9月12日、統合進化科学コース学生の南駿さん（D1）が2024年度日本数理生物学会年会でポスター賞優勝賞を受賞しました。

>> URL: <https://pub.conf.atlas.jp/event/jsmb2024>



南駿さん



## 核融合科学コース 小林達哉准教授が第2回(2024年)AAPS-JPS Awardを受賞

9月18日、核融合科学コース 小林達哉准教授が日本物理学会 AAPS-JPS Awardを受賞しました。

※ AAPS-JPS Award は、アジア地域の物理学振興のため、AAPS と日本物理学会が共同で、卓越した研究成果を挙げている若手研究者の功績をたたえるために制定されました。

>> URL: <https://www.jps.or.jp/activities/awards/index.php>

## 核融合科学専攻 学生の鈴木優也さんが The 43rd JSST Annual International Conference on Simulation Technology & The 23rd Asia Simulation Conference, Student Poster Presentation Awardを受賞

9月20日、核融合科学専攻学生の鈴木優也さん(D3)が The 43rd JSST Annual International Conference on Simulation Technology & The 23rd Asia Simulation Conference, Student Poster Presentation Awardを受賞しました。

# Press Release

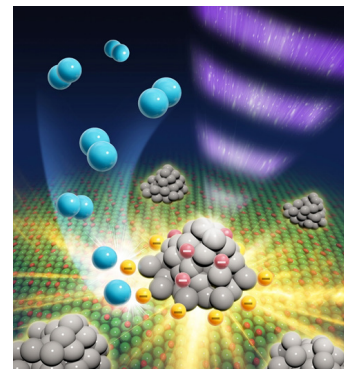
2024/8/29

## 非熱的な水・メタン分解水素生成における反応活性電子種の正体を分光学的に特定!

### ～ 金属 - 半導体複合界面場の協奏的機能解明への大きな一歩～

#### 研究概要

分子科学研究所の佐藤宏祐博士研究員、杉本敏樹准教授(総合研究大学院大学)の研究グループは、独自に開発した周期的な光励起下におけるオペランド赤外吸収分光法により、半導体光触媒上でのメタンや水分子からの水素生成反応に寄与する活性な電子種の正体を明らかにしました。これにより、従来の理解とは異なり、担持金属の周囲に存在する金属 - 半導体複合界面がプロトンに電子を受け渡し水素生成反応を駆動させる還元反応場として機能していることを見出しました。この成果は、米国化学会の学術誌『Journal of the American Chemical Society』に、2024年8月27日付で掲載されました。



カバーアート

#### 論文情報

- >> 掲載誌: *Journal of the American Chemical Society*
- >> 論文タイトル: "Direct *Operando* Identification of Reactive Electron Species Driving Photocatalytic Hydrogen Evolution on Metal-loaded Oxides" (「金属担持酸化物における光触媒水素生成を駆動する活性電子種の直接オペランド特定」)
- >> 著者: Hiromasa Sato and Toshiki Sugimoto
- >> DOI: [10.1021/jacs.3c14558](https://doi.org/10.1021/jacs.3c14558)
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240829.html>

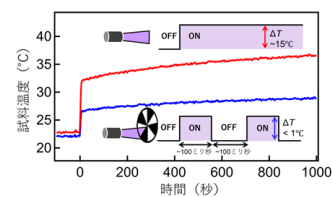


図1: 白金担持 Ga<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 光触媒試料に対する、励起光の照射・非照射の繰り返しによる温度上昇の抑制効果の実証例。(赤線) 励起光を連続的に照射し続けると、試料温度は秒オーダーの時間スケールで 15°C 程度の温度上昇が生じる。(青線) この温度上昇の時間スケールより十分速いミリ秒スケール(ここでは ~ 100 ミリ秒) で励起光の照射・非照射を繰り返すと、全体の温度上昇は 7°C 程度に半減している中で、励起光の照射・非照射間の温度変化が 1°C 以下に抑制されている。

2024/9/2

## 冷却原子型・量子シミュレータで原子の「電子状態」と「運動状態」の間の量子もつれを観測することに成功

### 研究概要

自然科学研究機構・分子科学研究所の Vineet Bharti 研究員（研究当時、現・ブリストル大学 Senior Research Associate）、素川靖司助教（研究当時、現・東京大学大学院総合文化研究科 准教授）、Sylvain de Léséleuc 特任准教授、大森賢治教授（総合研究大学院大学）らの研究グループは、ほぼ絶対零度に冷却した3万個の原子を0.5 ミクロン間隔で格子状に整列させ、10 ピコ秒（1000 億分の1秒）だけ光る特殊なレーザー光で高精度に操作する「超高速量子シミュレーション」における量子状態を詳細に調べました。その結果原子配列の電子状態の「量子もつれ」に加えて、原子同士の強い反発力に由来する電子状態と運動状態の間の「量子もつれ」が、数ナノ秒（ナノ = 10 億分の1）の間に形成されることを明らかにしました（図1）。またこの結果をもとに、粒子間の反発力を取り込んだ新しい量子シミュレーションが実現可能であることが示されました。今後、さらなる高度化により、新たな性質を持つ機能性材料を探求するツールとなることが期待されます。

この成果は米国物理学会を代表する旗艦誌「Physical Review Letters」のオンライン版に2024年8月30日に掲載されました。

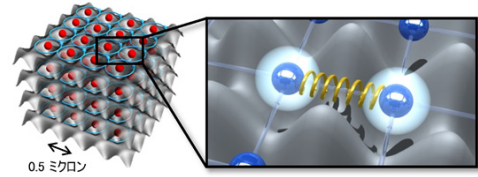


図1. 超高速量子シミュレータにおける「相互作用による反発力」の概念図

### 論文情報

- >> 掲載誌: *Physical Review Letters*
- >> 論文タイトル: “Strong spin-motion coupling in the ultrafast dynamics of Rydberg atoms”（「リユードベリ原子の超高速ダイナミクスにおける強いスピン-運動カップリング」）
- >> 著者: V. Bharti, S. Sugawa, M. Kunimi, V. S. Chauhan, T. P. Mahesh, M. Mizoguchi, T. Matsubara, T. Tomita, S. de Léséleuc, and K. Ohmori
- >> DOI: <https://doi.org/10.1103/PhysRevLett.133.093405>
- >> URL: [https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240902\\_3.html](https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240902_3.html)

2024/9/2

## 前例のない多地点観測によって、南極氷床内陸における広域の積雪粒径分布を明らかに—衛星観測と気候モデルの高精度化に期待—

### 研究概要

総合研究大学院大学 極域科学専攻の井上峻氏を筆頭著者とする研究グループは、東南極氷床沿岸から約1000 km 内陸に進むルート上で、氷床表面アルベドに重要な表面積雪粒子の比表面積（積雪粒径の指標）を約2150箇所の雪面で観測し、その広域分布を明らかにしました。観測の結果、沿岸から15～500 km（標高: 615～3000 m）の範囲では比表面積は有意な増減の傾向を示さず、この範囲を超えると内陸に向かって増加（粒径は低下）することが判明しました。また、この広域分布を決める要因として、温度依存性を持つ積雪の変態、降雪頻度、風による雪の堆積の抑制の組み合わせが重要であることが分かりました。本成果は、衛星観測や気候モデルで推定される表面積雪粒子の比表面積の検証データとして活用されます。さらに、今後数十年にわたり表面積雪粒子の比表面積の観測を継続することで、本観測結果は氷床内陸部の積雪に対する温暖化の影響評価の基準となり、内陸部における新しい温暖化監視要素と位置付けることができます。

### 論文情報

- >> 掲載誌: *The Cryosphere*
- >> 論文タイトル: Spatial variation in the specific surface area of surface snow measured along the traverse route from the coast to Dome Fuji, Antarctica, during austral summer

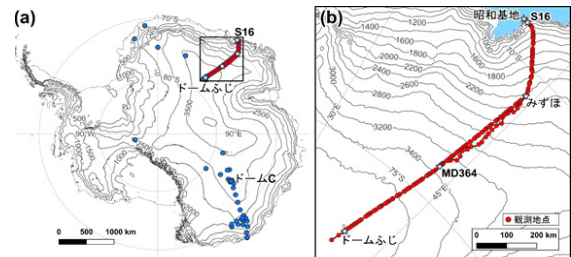


図1: 南極氷床における積雪比表面積の観測地点。

(a) 南極の地形図。青色と赤色のマーカーは、それぞれ先行研究と本研究によって比表面積が観測された地点を示す。

(b) (a) の黒枠に囲まれた領域の拡大図。

- >> 著者: 井上 峻（総合研究大学院大学 複合科学研究科・極域科学専攻）、青木 輝夫（国立極地研究所 北極観測センター、特任教授）、藤田 秀二（総合研究大学院大学 先端学術院・極域科学コース／国立極地研究所、教授）、津滝 俊（総合研究大学院大学 先端学術院・極域科学コース／国立極地研究所、助教） 本山 秀明（総合研究大学院大学 複合科学研究科・極域科学専攻／国立極地研究所、名誉教授） 中澤 文男（総合研究大学院大学 先端学術院・極域科学コース／国立極地研究所、准教授） 川村 賢二（総合研究大学院大学 先端学術院・極域科学コース／国立極地研究所、教授）
- >> DOI: [10.5194/tc-18-3513-2024](https://doi.org/10.5194/tc-18-3513-2024)
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240902.html>

2024/9/6

## 原子配列の乱れをもつフッ化物イオン導電性固体電解質のイオン伝導メカニズムの解明～リチウムイオン電池を凌駕する次世代蓄電池の創成を目指して～

### 研究概要

革新型蓄電池（ポスト・リチウムイオン電池）の開発競争をリードする上で、全固体フッ化物電池で使用するフッ化物イオン導電性固体電解質は、今後の蓄電池開発において重要なキーマテリアルとなります。高エネルギー加速器研究機構（KEK）物質構造科学研究所（総合研究大学院大学 先端学術院、茨城大学大学院 理工学研究科）森一広 教授、同研究所 ソン スンヨブ 特任助教、齊藤高志 特別准教授、京都大学成長戦略本部 佐藤和之 特定研究員、福永俊晴 研究員、同工学研究科 安部武志 教授、ファインセラミックスセンター 小川貴史 主任研究員、桑原彰秀 主席研究員の共同研究グループは、フッ化物イオン導電性固体電解質  $\text{Ca}_{0.48}\text{Ba}_{0.52}\text{F}_2$  のイオン伝導メカニズムを原子レベルで解明しました。

蛍石型構造をもつフッ化カルシウム（ $\text{CaF}_2$ ）やフッ化バリウム（ $\text{BaF}_2$ ）は、全固体フッ化物電池において重要な高電圧下での利用が期待されますが、その反面、イオン伝導率が低い物質です。 $\text{CaF}_2$  と  $\text{BaF}_2$  を原子レベルで混合することで、イオン伝導率が飛躍的に向上することが知られていましたが、 $\text{CaF}_2$ - $\text{BaF}_2$  系のフッ化物イオン（F）の分布やその伝導メカニズムは不明のままでした。

本研究では、熱プラズマ法で作製した  $\text{Ca}_{0.48}\text{Ba}_{0.52}\text{F}_2$  固体電解質を用いて中性子回折実験を行い、本系の原子配列と核密度分布を精密に決定しました。その結果、異なるイオン半径をもつ Ca と Ba が混合したことで構造歪みを誘発し、それによって F の原子配列が局所的に乱れることがわかりました。さらにフッ化物イオン伝導経路の可視化に成功し、F の原子配列の乱れが伝導経路内のイオン流れ（イオン伝導率）の向上に大きく寄与していることを明らかにしました。

本研究成果は、2024年9月5日（米国時間）に、米国化学会（ACS）発行のエネルギー材料科学の専門誌「ACS Applied Energy Materials」のオンライン版に掲載されました。

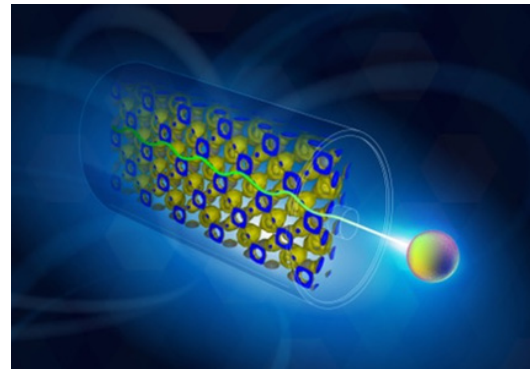


図1  $\text{Ca}_{0.48}\text{Ba}_{0.52}\text{F}_2$  固体電解質の中をフッ化物イオンが高速で流れていくイメージ図

### 論文情報

- » 掲載誌: *ACS Applied Energy Materials* (2024)
- » 論文タイトル: "Experimental visualization of F-ion diffusion pathways and geometric frustration-induced disorder in  $\text{CaF}_2$ - $\text{BaF}_2$  solid electrolytes"
- » 著者: Kazuhiro Mori, Kazuyuki Sato, Takafumi Ogawa, Akihide Kuwabara, Seungyub Song, Takashi Saito, Toshiharu Fukunaga, and Takeshi Abe
- » DOI: [10.1021/acsaem.4c01278](https://doi.org/10.1021/acsaem.4c01278)
- » URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240906.html>

2024/9/13

## わずか 30 年で生じる都市化の影響：都市のエゾリス集団の遺伝構造解析

### 研究概要

近年、多くの野生動物が都市部で生息し始めています。今や生物多様性保全の場としても重要視されている都市において、これらの野生動物が長年にわたって都市で生息するためには、どのような環境を築けばよいのでしょうか？そのヒントを得るうえで、都市に生息する野生動物の集団遺伝構造を深く理解することが欠かせません。本研究では、北海道帯広市の都市部から郊外にかけて生息するエゾリスを対象に、集団の遺伝構造を調査しました。その結果、以下のことがわかりました。

- ・都市と郊外の集団間で遺伝的交流が減少し、遺伝的に分化していること
- ・都市と郊外の緑地が連結する中間部の緑地（林や防風林）があることで、都市と郊外の集団の遺伝的交流が維持されていること
- ・都市部で生息地間での集団の分化が拡大していること
- ・都市部で遺伝的多様性が減少したこと

帯広市でリスの都市生息が確認されたのは 1990 年代からであることから、これらの遺伝構造への影響はわずか 30 年ほど、約 15 世代を経る間に生じたことが示唆されました。また、リスが受けたこれらの遺伝的影響は、交通量の多い道路の存在・緑地の欠如・餌付けの存在などの都市特有の要因によって生じた可能性も示唆されました。

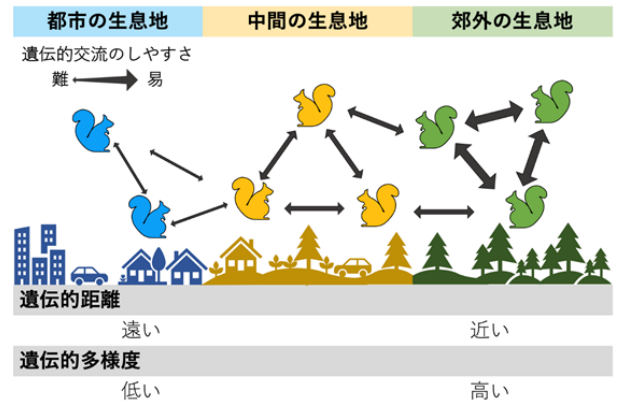


図1. 研究の概略図。郊外から都市部に向かうほどエゾリス集団の遺伝的交流が難しくなり、遺伝的距離の拡大と遺伝的多様度の減少が生じていた。

### 論文情報

- ≫ 掲載誌：*Conservation Genetics*
- ≫ 論文タイトル：Urbanisation has impacted the population genetic structure of the Eurasian red squirrel in Japan within a short period of 30 years
- ≫ 著者：高畑優（総合研究大学院大学 / 現 立命館大学 専門研究員）、内田健太（東京大学 助教）、沓掛展之（総合研究大学院大学 教授）、鳥本樹（日本獣医生命科学大学 講師）、浅利裕伸（帯広畜産大学 准教授）、寺井洋平（総合研究大学院大学 准教授）
- ≫ DOI: <https://doi.org/10.1007/s10592-024-01631-9>
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240913.html>

2024/9/13

## 薬用植物ホソバオケラに未知の機能を持つ B 染色体を発見

### 研究概要

千葉大学大学院園芸学研究院の菊池真司准教授、同大園芸学研究院博士前期課程の原一矢氏、株式会社ソムラの津坂宜宏研究員、総合研究大学院大学 統合進化科学研究センターの田辺秀之准教授、かずさ DNA 研究所先端研究開発部の磯部祥子博士、白澤健太博士らの共同研究チームは、漢方の原料生薬である蒼朮（ソウジュツ）の基原植物ホソバオケラ（図1）の品種改良に使われる系統が、生存には必須ではない B 染色体を保有することを発見しました。さらに、ホソバオケラの B 染色体は、オスとメスの両方から優先的に後代に伝達されることが明らかになりました。生存には必須ではない B 染色体が生き残るための戦略（分子機構）が存在していると考えられます。

ホソバオケラの B 染色体が持つ後代への優先的な伝達の仕組みの解明は、生物進化における染色体の数や形（核型）の「ゆらぎ」の理解につながります。また、B 染色体の DNA 配列を解読することで、品種改良への利用や、蒼朮の安定供給にもつながることが期待されます。

本研究成果は、2024 年 9 月 12 日（日本時間）に、学術誌 PLOS ONE で公開されました。



図1 ホソバオケラの花

### 論文情報

- ≫ 掲載誌：*PLOS ONE*
- ≫ 論文タイトル：B chromosome and its non-Mendelian inheritance in *Atractylodes lancea*
- ≫ 著者：Hara K, Kikuchi S, Inoue M, Tsusaka T, Sakurai M, Tanabe H, Shirasawa K, Isobe S
- ≫ DOI: [10.1371/journal.pone.0308881](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0308881)
- ≫ URL: [https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240913\\_1.html](https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240913_1.html)

2024/9/17

## 水溶液中の金属錯体の電子状態と配位構造を解明する新手法を開発 – 軟 X 線吸収分光計測による配位子側からの詳細な解析を実現 –

### 研究概要

自然科学研究機構 分子科学研究所／総合研究大学院大学の長坂将成助教、理化学研究所計算科学研究センターの水流翔太特別研究員、名古屋大学物質科学国際研究センター／大学院理学研究科の山田泰之准教授の研究グループは、水溶液中のポルフィリン金属錯体の軟 X 線吸収分光計測から、その金属－配位子間の非局在化を中心金属と配位子を分離した電子状態解析により明らかにしました。更に、窒素 K 吸収端 XAS 計測と内殻励起計算により、水溶液中の CoPPIX の配位構造を調べて、CoPPIX が水溶液中でも 5 配位を維持することを見出しました。

本研究成果は、国際学術誌『Physical Chemistry Chemical Physics』に、2024 年 9 月 3 日付でオンライン掲載されました。

### 論文情報

- » 掲載誌: *Physical Chemistry Chemical Physics*
- » 論文タイトル: Metal-ligand delocalization of iron and cobalt porphyrin complexes in aqueous solutions probed by soft X-ray absorption spectroscopy” (「軟 X 線吸収分光法による水溶液中のポルフィリン鉄錯体とポルフィリンコバルト錯体の金属－配位子間の非局在化の計測」)

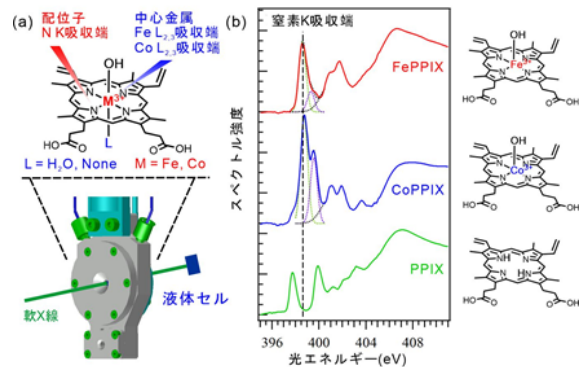


図 1: (a) 金属錯体水溶液の XAS 計測の模式図。Fe, Co L2,3 吸収端から金属錯体の中心金属が、窒素 K 吸収端からその配位子の電子状態が分かる。金属錯体への水分子の配位構造も調べた。(b) FePPIX, CoPPIX, PPIX の窒素 K 吸収端 XAS スペクトル。配位子の C=N π\* ピークから、金属錯体の配位子の電子状態が分かる。

- » 著者: Masanari Nagasaka, Shota Tsuru, and Yasuyuki Yamada
- » DOI: <https://doi.org/10.1039/D4CP02140A>
- » URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240917.html>

2024/9/27

## 脈動オーロラの形状と宇宙から降り注ぐ電子のエネルギーの関係を解き明かす観測に成功

### 研究概要

電気通信大学大学院情報理工学研究科 博士前期課程修了 伊藤ゆり氏 (現 国立極地研究所 宙空圏研究グループ 特任研究員 兼 総合研究大学院大学 博士後期課程 1 年)、電気通信大学大学院情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻の細川敬祐教授を中心とする研究グループは、ノルウェーのトロムソに設置されている全天型オーロラ撮像装置と、大型大気レーダーで観測されたオーロラや超高層大気電子密度と、地球近傍の宇宙「磁気圏」で衛星観測された波動や電子のデータを比較することにより、点滅するオーロラ「脈動オーロラ」の形状、磁気圏から地球大気中に降り込んでオーロラ発光を引き起こす電子、および磁気圏における電子密度の管状構造「ダクト」の関係を明らかにしました。

最近の研究で、脈動オーロラの発生時には、地球大気中に降下してオーロラを光らせる電子のほかに、より高エネルギーの電子 (相対論的電子) も降下して中間圏・上部成層圏のオゾン破壊を誘発することが示唆されています。本成果は、相対論的電子の宇宙空間における分布の可視化や地球大気中に降り込むメカニズムの解明につながる事が期待されます。

### 論文情報

- » 掲載誌: *Journal of Geophysical Research: Space Physics*

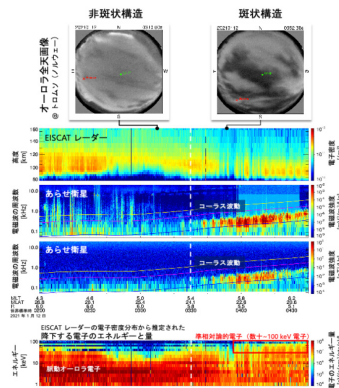


図 1: 2021 年 1 月 12 日に光学機器、EISCAT レーダー、あらせ衛星によって観測された時系列データ。オーロラの形状の違いに対応して、超高層大気電子密度の様子、地球に近い位置におけるコーラス波動の観測の有無、降下電子のエネルギーが変化している。MLT (磁気地方時)、MLAT (磁気緯度)、R はあらせ衛星の位置を表す指標である。MLAT の大きさは磁力線に沿って地球に近いことを示しており、本研究において重要なパラメータである

- » 論文タイトル: On the factors controlling the relationship between type of pulsating aurora and energy of pulsating auroral electrons: Simultaneous observations by Arase satellite, ground-based all-sky imagers and EISCAT radar
- » 著者: Y. Ito, K. Hosokawa, Y. Ogawa, Y. Miyoshi, F. Tsuchiya, M. Fukizawa, Y. Kasaba, Y. Kazama, S. Oyama, K. Murase, S. Nakamura, Y. Kasahara, S. Matsuda, S. Kasahara, T. Hori, S. Yokota, K. Keika, A. Matsuoka, M. Teramoto, and I. Shinohara
- » DOI: [10.1029/2024JA032617](https://doi.org/10.1029/2024JA032617)
- » URL: [https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240927\\_2.html](https://www.soken.ac.jp/news/2024/20240927_2.html)

## メディア情報

## 2024/8/5 愛媛新聞・朝刊

- ≫ 末森薫 准教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：異文化のまなざし みんなく50周年①  
・莫高窟壁画研究 末森さん  
物と対話 その先を言語化

## 2024/8/6 愛媛新聞・朝刊

- ≫ 河西瑛里子 助教（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：異文化のまなざし みんなく50周年②  
・女神運動研究 河西さん  
見えないものに耳傾ける

## 2024/8/7 愛媛新聞・朝刊

- ≫ 平野智佳子 准教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：異文化のまなざし みんなく50周年③  
・アポリジニ研究 平野さん  
異常と正常「境界」を問う

## 2024/8/8 愛媛新聞・朝刊

- ≫ 黒田賢治 助教（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：異文化のまなざし みんなく50周年④  
・イラン研究 黒田さん  
普通の人にとっての国家

## 2024/9/5 京都新聞・夕刊

- ≫ 菅瀬晶子 准教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：2025 大阪・関西万博の前に 世界を知ろう  
イスラエルに住むアラブ人女性を絵本に  
料理で描く「普通の人々」の営み

## 2024/9/25 産経新聞・朝刊

- ≫ 吉田憲司 館長（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：FROM KANSAI 歩いて世界一周「民族学博物館（みんなく）」50周年  
館長インタビュー：異文化共生 意識醸成し後世に

## 2024/9/25 産経新聞・夕刊

- ≫ 広瀬浩二郎 教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル：山上直子の犬も歩けば 全盲の文化人類学者  
広瀬浩二郎さんに聞く  
「瞽女」文化 見えぬ世界の豊かさ

## 2024/10/4 エフエム EGAO「EGAO FRIDAY SCIENCE LAB.」

- ≫ 西野 史さん（構造分子科学専攻）、林 仲秋さん（機能分子科学専攻）
- ≫ URL：<https://www.youtube.com/watch?v=rXZGjFB4JYA>

※分子科学研究所の研究者が毎月ゲスト出演し、研究内容や暮らしのなかのかわり、人となりについてトークするラジオ番組の YouTube アーカイブ

## イベント情報

日程	イベント名	URL	実施機関
2024/4/1-2025/3/19	分子科学研究所 短期インターンシップ	<a href="https://www.ims.ac.jp/education/event.html">https://www.ims.ac.jp/education/event.html</a>	分子科学研究所
2024/9/5-12/3	みんなく創設50周年記念企画展「客家と日本——華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」	<a href="https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/51493">https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/51493</a>	国立民族学博物館 奈良雅史准教授
2024/9/19-12/20	みんなく創設50周年記念特別展「吟遊詩人の世界」	<a href="https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/51494">https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/51494</a>	国立民族学博物館 川瀬慈教授
2024/11/8	みんなく公開講演会「民族×アートの現在——美をめぐる政治のゆくえ」	<a href="https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/55138">https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/55138</a>	国立民族学博物館 松尾瑞穂准教授、鈴木紀教授
2024/11/8	第141回分子科学フォーラム 講演者：吉森 保(大阪大学 教授)	<a href="https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2024/09/02_6408.html">https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2024/09/02_6408.html</a>	分子科学研究所
2024/11/16	遺伝研オンライン公開講演会2024 木村資生博士生誕100周年記念講演会	<a href="http://www.niq.ac.jp/kouenkai/">www.niq.ac.jp/kouenkai/</a>	国立遺伝学研究所
2024/11/16	統合進化科学コース オープンキャンパス	<a href="https://www.soken.ac.jp/event/2024/20241116.html">https://www.soken.ac.jp/event/2024/20241116.html</a>	統合進化科学コース
2025/1/20	総研大 アジア冬の学校2024	<a href="https://registration.ims.ac.jp/aws24/home">https://registration.ims.ac.jp/aws24/home</a>	分子科学研究所
2025/1/21	【オンライン開催】第142回分子科学フォーラム 講演者：波多野 睦子(東京工業大学 教授)	<a href="https://www.ims.ac.jp/public/seminar.html">https://www.ims.ac.jp/public/seminar.html</a>	分子科学研究所
2025/2/14	核融合科学コースで学ぼう！研究最前線説明会・講演会		核融合科学コース

## 編集後記

10月15日（火）の宵の口、ここ葉山キャンパスから紫金山・アトラス彗星を見ることができました。この写真は、葉山の事務職員が撮影したもので、夜空に彗星本体と尾もはっきりと見て取れます。約8万年かけて太陽を回る軌道を一周するといわれているアトラス彗星、宇宙の時間の壮大さに、ただただ息をのむばかりです。地球に生きる私たちもまた宇宙の営みの一部と考えると、この大きな舞台に自身が存在している奇跡を感じざるをえません。

8万年後の地球が美しく、また平和でありますように。

（広報社会連携係）



紫金山・アトラス彗星（葉山キャンパス近くのバス停より撮影）

## 総研大基金によるご支援について

本学では、経済的に困難を抱える学生の支援等を推進するため、総研大基金を設立しています。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大学生が筆頭著者として研究論文を出版する際など、プレスリリースを行う場合は、総研大と基盤機関との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

また、学生や教員のメディア出演や受賞・表彰、地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動といった社会連携・貢献活動など、様々な活動について、ニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、是非情報をお寄せください。

なお、研究論文を投稿する場合やメディア等へ出演される場合は「総合研究大学院大学」と表記いただき、総研大の知名度向上へご協力ください。

2024年11月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学  
総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村

TEL: 046-858-1629

Email: kouhou1@ml.soken.ac.jp

© 2024 SOKENDAI